

3 本校の授業参観者による分析

学力向上推進リーダー通信

平田中学校 H26. 11. 21 (金)

授業だより～「風」～

臨時号

「授業は見られてうまくなる」「生徒は見られて賢くなる」

平田中学校3年4組で、「故郷」を教材とし、「語り方を根拠にしながら『私』の見方を読み取る」ことを意図した授業が、河辺哲也教頭先生により行われました。

(1) 授業について

母やヤンおぼさんの、灰の山に椀や皿を埋めたのはルントウではないかというくだりは、普段は軽く読み流してしまうようなところです。その箇所をとりあげて、「『私』は誰の仕業だと思っているのだろうか。」という発問に、生徒達はハッとし、教科書を読み返していました。生徒が関心をもって、この一問に一時間も授業に集中できたのは、発問のもつ驚きと魅力だろうと思いました。

生徒の「眼に見えぬ高い壁があって」という発言に、再会の場面で感じた「悲しむべき厚い壁」を想起させ、違いを比べることによって、離郷の場面の「私」の気持ちをつかませる場面がありました。中村校長先生がご指摘になったように、生徒同士の発言を価値あるものとして評価し、生徒の発言を拾いつなげながら、授業を構築していく河辺教頭先生の授業技術があったことは、言うまでもありません。授業では、生徒同士が「●●さんの意見を聞いてこう思った。気がついた」とか「●●君の意見とは僕はここが違うのだけれど…」とお互いの発言を比べながら自分の感じ方を述べあっていました。

また「ルントウの仕業だと思っているから名残惜しい気はしない」という読み取りは、離郷の場面の「私」の気持ちにつながっています。この発問は、『私』の見方を読み取る発問にとどまらず、離郷の場面を読ませていく仕掛けがあったように思います。

(2) 研究協議

授業参観者が4、5人の班に分かれ、主に発問についてグループ討議をしました。発問については、生徒の反応がよく、根拠をもってよく発言していた。二者択一の問い方では、発言の可能性が狭まる。まず、誰の仕業なのかを生徒に考えさせた方がよい。

これもという言葉に着目するとよい。授業者の意図が先行して生徒との関心にずれがあったのでは等、賛否両論の反応でした。

(3) 課題

授業の最後に「ルントウが埋めたのではない」と発言した生徒は、語り手の「私」に同化しながら読んだ読者である「私」の考えになっていました。**読み取りの大きな課題を引き出す発言でした。**このような大きな課題を引き出した授業を、中村校長先生は「挑戦」とおっしゃいました。研究協議の中で、「僕も「故郷」を読みたくなった。」と言った班がありました。そして、生徒だけでなく私たち教員も読み返したくなる授業であったと思います。

(文責 好中 加奈絵)

4 総括：「平田中学校 授業づくり研究会」について

アンケート回収 25名

(1) 今回の授業づくりは、参考になったか。

ア 大変参考になった	21名	イ 参考になった	4名
ウ あまりならなかった	0	エ 参考にならなかった	0

提案授業や学校の研修体制について、参加された先生方全員が、「参考になった」という肯定的な回答であった。以下、その内容を具体的に述べてみたい。

(2) どういうところが参考になったか。

① 授業について

ア 国語の授業では、生徒の反応を引き出す授業技術について参考になることが大変多かった。授業の楽しさを教えてもらった。

イ 授業（国語）を参観し、生徒の発言の質の高さに驚いた。自分の主張とその根拠をしっかりと組み立てて述べていた。日頃の授業から、「生徒に求めているもの」が高いな、と感じた。

ウ 生徒の活動と教師の「ねらい」にズレがある方がよいという考え方は、目から鱗でした。生徒の反応を引き出す発問を工夫したいと思った。

エ 授業者のゆったりした、かつ、じっくり考えさせたい発問の仕方、そして教室の生徒の雰囲気になかさを感じた。教師の問いかけ「発問」で授業をかえることができると感じた。

オ 英語の授業を参観し、生徒に出力（書く・話す）させる場をできるだけ多く設定することが大切なことがわかった。生き生きと楽しそうに話していることに驚いた。

カ 美術の授業では、話し合いの仕方、根拠を持って表現できる生徒、指導者が時間内に振り返り、まとめる力に感動しました。

キ 3教科とも「生徒が考えたいくなる」という手立ての工夫が素晴らしい。学習意欲の向上のために様々な手立てを準備していく必要を感じた。特に発問！

ク 3教科の授業を参観してまわった。生徒が生き生きと発表している姿を目にしました。大規模校でも、これだけ子どもが集中して取り組めるのかとびっくりした。

ケ 小学校からの参加です。英語の授業を見て、小学校とのつながりや言語活動のあり方など、「中学校への見通し」がもててとてもよかった。小中連携ですね。

今回の提案授業の柱である「発問」の工夫、そして、「言語活動」について、評価する声が多かった。「教師の問いが生徒の問い」となり、考えようとする姿を見た結果であろう。今後、思いつきを勝手に話すのではなく、「根拠を持って自分の考えを述べる」ことが、「言語活動が充実させる」ことだととらえていきたい。

「考えたいくなる発問」づくりが教科によって取組みにくいという声を聞いた。

今後の課題としては、教材研究を踏まえた「生徒が考えたいくなる発問」（国語科など）や「やってみたいくなる活動」づくり（英語科など）である。

(3) 分科会及び全体説明について

- ①学校全体で組織的に取り組んでいることが、分科会や全体発表から良く伝わってきた。なかなかできないことです。すばらしい！全体発表がわかりやすかった。
- ②授業→分科会→全体会の内容が本質的だった。特に、研究協議はマンネリ化している中で、平田中の分科会は楽しかった。平田中のやり方を自分の学校に取り入れたい。
- ③「平田中授業モデル」を拝見し、理にかなったものであり大変良い。参考にします。
- ④国語科の授業、分科会そして指導助言と、考えたいことが明確で、とてもわかりやすかった。
- ⑤分科会で討議するとき、代案も考えることは、次につながる討議だと思う。

育てたい生徒を踏まえ、「平田中授業モデル」を全員が意識して授業をつくることがすばらしいという声が多い。めざすべき授業像を共有することは重要である。

(部活動と同じですね)

また、どの研究会でも、「ワークショップ型の協議」が多い中で、「授業シート」を基に、「発問」等に絞ったことは、「**短時間の話し合いであったが有意義だった**」との声が多かった。

分科会の「司会」は、授業者と同じ役割である。参加者に意見を自由に出させ、話題を価値付けし、焦点を絞りながら深めていく。「**司会力**」の向上は、**授業力の向上**である。

(4) その他

- ①階段の絵や展示されている絵が美しい！
- ②校舎内が丁寧に掃除されている。
- ③とてもきれいな校舎に感激しました！図書室も本が展示されたり、きれいにされておりすばらしかった。
- ④とても落ち着いた雰囲気の中で、授業に取り組んでいる子どもたちはすばらしい！
(平田小の先生方から)

「学校がきれい」「清掃が行き届いている」という参加者の声を多く聞いた。

美しい学習環境が、落ち着いた学校づくり、学級づくりの根本であることを改めて実感する。

また、絵や学年の取り組みを掲示した写真等、よく見ている参加者が多かった。これは、参観日の保護者も同じことがいえる。掲示物には、教師が生徒にどう関わっているのか、生徒を大事にしているのかどうか、という一番わかりやすいバロメーターなのだろう。

学校の荒れは、教室や校舎が汚くなり、掲示物の破損等から始まると言われる。今後とも、生徒の心を育てる環境づくりに取り組みたい。

平田中授業モデル

生徒の
実態

- 与えられた課題にはおおむね真面目に取り組む。
- 好奇心旺盛である。
- 自分の意見をすすんで発表することや、自分の思いを相手に的確に伝えたりすることが苦手。
- 基礎的・基本的知識の定着が不十分。

研究主題 意欲的に学ぶ生徒の育成
～知識や技能を活用し、思考力を育てる授業づくり～

授業で身に付けさせたい力

表現力・集中力・学習意欲

「学習意欲を高めることが、集中力・表現力を高めることにつながる」
学力向上の視点＝意欲の向上

★授業における4つの場面づくり

1 今日のねらいを明確にする場面づくり

何を学習するのか、何ができるようになるのか、生徒がわかる。

- 小学校や前学年での既習内容との関連付け
- ねらいを板書し、何をするのか、生徒に教えること

2 生徒が自ら考えようとする場面づくり

- 考えたい課題や発問
- ひとり学びの時間
- ペアやグループでの学習の時間

3 表現する場面づくり

- 生徒の表現したものを価値づけすること
生徒の発言をつなげる・深める

4 今日の学習を振り返る場面づくり

- 自己評価
「わかったこと」「わからなかったこと」
「できたこと」「できなかったこと」を書く

生徒の
学習意欲の向上

学習内容の定着